

1. 本園の教育目標

キリスト教的人間観に基づき、乳幼児の個性を尊重し、適度な環境を与えて、心身共に健康で調和の取れた発達を助長する。

2. 2020年度、重点的に取り組んだ目標・計画

教育理念である「愛されることにより愛を覚える」の実践に向けて、子どもたち一人ひとりが自ら選び活動し満足できるよう環境設定を心掛け、教職員は子ども・保護者・同僚に対しての愛の実践に力を入れる。

年主題： ころろがみたされる

- ・つながりを大切にする(異年齢・同年齢・地域の方々)
- ・自分と友だちを大切にする子ども

自分自身に肯定感を持つと同時に、友だちや年下のお友だちにやさしい気持ちになれる子どもに成長していけるよう導いていく。また、子どもたちには、自分を認めてもらうことで自信をつけて、さらに自分の持っている良いところを伸ばしてほしい。

コロナ感染の拡大で、地域との繋がりが難しくなっているが、困難な時こそ、連絡を取り合い地域との繋がりを深めていきたい。

レーザーキッズのネット配信により、コロナ自粛の時も動画配信などを試み、普段の保育の様子もネットを通して、発信できるように工夫していく。

3. 評価目標の達成及び取組状況

課 題	具体的な取り組み方法
教育充実のための 取り組み	① コロナ禍の中であっても、音楽コンサートを年間8回実施し、本物に触れる機会を持った。 ② 畑では、種まきから経験し、植物の成長を目の当たりにし、命の大切さを学ぶ機会を持つことができた。枚岡カトリック教会の信者の皆様に感謝。 ③ 山登りの経験は、コロナ禍で回数を増やすことはできなかったが、引き続き四季折々の様子を観察していきたい。
保育・教育職員の レベル向上	① 対面での研修の機会が減少した1年ではあったが、反対に、幼稚園でZoomにて全職員が研修を同時に受けることもでき、利点もあった。 ② 他園を見学することや、他園に先生方との交流で、新たな刺激を受けるとい意味では、全く実施できなかったのが、次年度に臨みたい。 ③ 中堅の職員が自ら研修に参加する姿があったが、他の職員と共有する時間が取れなかったのが、今後の課題とする。
保育・教育環境の 整備	① こどもたちが自分で考えたり、選んだり機会を多く持ち、自立につながる保育を心がけている。 ② コロナ禍で、行事の形を変更することも多くあったが、子どもの育ちに必要を見直す機会ともなった。 ③ モンテッソーリ教育を取り入れ、自由選択活動の時間も十分に取り、マリアンルームも毎日開室することで、興味あることに取り組むことができた。保育室で教具を展開するには至っていないので、研修に参加する職員を中心に幅を広げていきたい。

	④ 畑で収穫した作物をつかって、食育に取り組んできた。栄養素を知って偏食が少しでも緩和できるような取り組みをしたい。
園独自の項目	① 隣接する住宅との境界のブロック塀を低くし、新たに園側に柵を設置した。 ② 乳児園庭のチップ塗装を行い、直射日光を避けるためにサンシェードを設置した。 登降園管理システムを導入したことで、コロナのための休園措置期間も、家庭に動画配信を行い、園と家庭との連絡を密にすることができた。
社会連携・奉仕事業	① 近隣のくすは縄手南校区校外活動に加入したが、コロナ禍の中、すべての事業が中止となった。引き続き、つながりを保っていききたい。 ② 近隣の商店街と連携をとり、様々なイベントに参加することができ、関わる方たちに感謝の気持ちを持つことができた。 ③ 大きなフェスタを廃止することで、父母の会の負担は軽減できた。その代わりに、子どもたちに、人形劇や音楽会を開催していただくことができた。 ④ 保護者が手伝う行事の内容を見直し、子どもたちが自らできることを増やしていくようにしている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>コロナ禍の中、行事のスタイルも随分と変更したが、子どもたちの「いま」を大切にできることを積極的に行った。デジタルではなく、本物に出会い五感で感じることはこの時期の子どもにとっては、とても大切なことである。畑においては収穫だけではなく種まき、土作りなど積極的に取り組むことができた。畑の活動に係ってくださるすべての方に感謝の心も育むことができた。</p> <p>コロナ禍の影響で、地域との交流は皆無となり残念であったが、次年度に期待を持ちたいと思う。保育者の満足で終わるのではなく、子どもたちが自らやりたい！できた！と思える活動をさらに増やし、保育室の環境も整えることができた。常に子どもたちの観察を行い、発達に合わせた教材や教具を研究し保育に生かしたいと思う。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育の充実 職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門リーダーの配置変えを行い、得意な分野において研鑽し、園内においてリーダーシップを発揮していく。 ・学びに向かう力をつけるために子ども自身が選んで活動できるカリキュラムや環境設定についてそれぞれが研究し、実践していく。 ・教職員一人一人が、子ども・保護者・同僚に対して愛の実践を行う。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直しを行う ・リスクマネジメントについて教職員全員が日頃から心がける。 ・安全対策リーダーを中心に、さまざまな場面を想定した避難訓練を行う。
自主自立目指すための環境設定	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをよく観察し、自分で選び、一人でできるよう環境を整える ・思考の芽生えを促すような、子どもの心に語り掛ける環境を準備する。 ・畑を作り、五感を使って自然の中から学べる環境を準備する。 ・本物の音に出会い、身体で音を感じ楽しむ利用にする。

保護者・ 地域との連携・ 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の様々な災害を教訓に教職員全員が近隣の方との声かけ、顔を合わせたお付き合いを心掛ける。 ・ 地域の方にも参加していただけるコンサートなどを企画する。 ・ 保護者向けのコンサート、講演会などを企画する。 ・ 校区の小学校、中学校との連携を深める。 ・ 老人ホームなど慰問を引き続き行う
-------------------------	---

● 2021年度、重点的に取り組む目標・計画

教育理念である「愛されることにより愛を覚える」の実践に向けて、子どもたち一人ひとりが自ら選び活動し満足できるよう環境設定を心掛け、教職員は子ども・保護者・同僚に対しての愛の実践に力を入れる。

年主題： 共に喜んで ～すべての歩みのなかで～

- ・ ““みたい やりたい”子どものやる気を育て、“できた”ことを共に喜ぶ。
- ・ どんなときでも一人ひとりを愛してくださる神さまを感じる。

● 2021年度の評価項目

- ・ 保育内容の充実 ・ 教職員のスキルアップ ・ 危機管理
- ・ 自主自立を目指すための環境設定 ・ 保護者、地域との連携、 情報発信

6. 学校関係者の評価

講評

コロナ禍に負けることなく、教育充実のための取り組みでは、保育・教育職員のレベル向上面において、本物に触れるコンサートの開催、zoomでの研修など、しっかりと実践されています。また、保育・教育環境の整備では、行事の形態を変化させたり、子どもたちの自由選択活動の幅を拡大させたり、ハード面の設置も積極的に実施され、新たに子どもたちの成長に必要な保育教育要素とは何かを追い求め、模索されている姿勢には大いに高評価を差上げます。